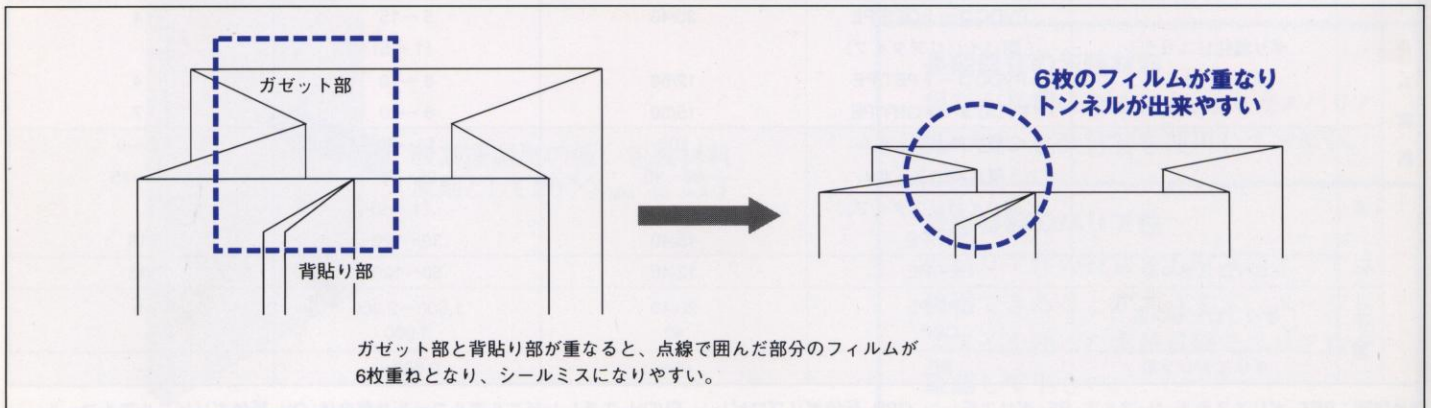


包装容器の材質(包装材料)決定上のポイント

シール性の良い材料構成や形状とする

- シールの確実さ・容易さを考慮してフィルム構成や袋形状などを決定します。
- 包装材料表面に和紙などを貼り合わせたフィルムの場合は、特にシール性の良い構成にしてください。
- 一般にはPE(ポリエチレン)系のフィルムは他の材質に比べて低温で接着するので、ラミネート包装材料のシール層として用いられています。
- 特にガゼット包装では、ガゼット部と背貼り部が重なり合わないよう注意してください。



ピンホールの発生しにくい材料や形状を選ぶ

- 折れ曲がりが発生しやすい包装形態の場合には、摩擦や折れ曲がりに強い材料構成にしてください。
- 袋内にトレイを使用する場合は、耐ピンホール性の良い材料構成を選んでください。

ワンポイント アドバイス

こんな時にピンホールが…

- **トレイのバリや割れに注意!** 包装袋の中にプラスチックトレイを使用するとき、バリや割れがあると、包材にピンホールを開けてしまうことがあります。
- **針金の入った結束材に注意!** 袋の上部をとめる針金入りの結束材が袋にピンホールを開けることがよくあります。取り扱いには十分注意をしてください。
- **日付刻印に注意!** 製造年月日などを刻印する印字装置(ホットプリンター)の活字のとがった部分により包装材料にピンホールを開けてしまうことがあります。活字の装填状態の確認や印字装置の圧力調整などを実施するほか、刻印する位置をヒートシールの外側に変更するなどの対策が必要です。
- **製品の突起物に注意!** 製品の突起物で包材にピンホールが開くことがあります。内袋やトレイなどで二重包装する必要があります。
- **作業台などの突起に注意!** 作業台やシール機などの突起物で包装袋にピンホールが開くことがあります。また、パックした製品は丁寧に扱ってください。特に重量物では注意が必要となります。